

第1回少人数教育推進検討委員会あいさつ

本日は、お忙しい中、また台風10号の影響によるたいへんな悪天候の中を、第1回少人数教育推進検討委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。皆様には、日頃より本県の学校教育の充実・発展のためにご尽力いただいております。この場を借りて深く感謝申し上げます。

山梨県で育つ全ての子どもたちが、学校教育の中でその持てる力を存分に発揮し、将来、自分に対する信頼と誇りをもって生きていってほしい、そう願いながら、県教育委員会では、子どもたち一人ひとりに向き合った、きめ細かで質の高い教育の実現を目指しています。

本委員会は、有識者や学校関係者の皆様を委員としてお願いし、公立小中学校における更なる少人数教育の推進についてご検討いただくため設置しました。

少人数教育につきましては、本県では、平成16年度から公立小中学校に段階的に導入し、現在、小学校1・2年生は30人、小学校3年生から中学校3年生までは35人を基本とした学級編成を実施しております。

子どもたちは先生や仲間と学校生活を過ごす中で多くのことを学び、成長します。授業では教科書を通じて先生が教えようとしたことよりも、教えようとしている内容に対する先生の姿勢、教材を扱う手つき、そういうものから子どもたちは無意識のうちに先生の意図とは別のことを学んでしまうことも多いと思います。

また、授業時間も含め、学校での時間の大半を教室で一緒に過ごす仲間との交流、そして集団の中で個々の子どもに丁寧に接している先生の姿、学校生活の中には意図していなくても自然に学んでしまう場面が本当にたくさんあります。

少人数教育は個々の子どもの学習指導や生活指導だけに限定せず、先生や仲間との生活の集団としての面からも幅広く考える必要があると、私は思います。

昨年度もこの委員会において貴重なご意見をたくさんいただきました。委員の皆様には、昨年度のご意見をもとに、また新たな視点で、それぞれのお立場から引き続きご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。